



「釜石の人の前で釜石弁で語るのは緊張する」と笑いを誘う場面も

東日本大震災 慰霊祭

7月22日〔両石町〕

東日本大震災津波により、13戸を残して全ての家が流失した両石町。46人（関連死を含む）の尊い命が犠牲となりました。両石町内会と両石財産区は、哀悼の意と教訓を後世に伝えるべく、両石湾を見下ろす高台に慰霊碑を建立し、集まった約150人は海に向かって祈りをささげました。遺族代表の渡辺裕子さんは「私も震災で夫を亡くし、まちも当時の面影はなくなりましたが、息子夫婦と両石で暮らすことにしました。前向きに生きていこうと思います」と述べました。



元気いっぱいにダンスを披露する子どもたち

釜石弁で語る宮沢賢治の世界

7月21日〔ミッフィーカフェかまいし〕

ストーリーテラーとして活躍する宮園智子さん（福岡県在住）による語りが行われました。釜石出身の宮園さんは、震災後、東北弁で宮沢賢治の語りをする事で、東北地方に目を向けてほしいとのメッセージを発信し続けています。この日は昔話3話と宮沢賢治の「注文の多い料理店」を披露。宮園さんは「昔話は方言に直すが、創作作品は直さない。濁音、鼻濁音、言い方で表現を変える」と言います。臨場感溢れる語りに、約40人の参加者はその世界に引き込まれました。



中村司恩さん（甲子小5年）、陸人さん（同小3年）、萌音さん（同小2年）の兄弟が慰霊碑の除幕をしました

釜石駅前 夏祭り

7月28日〔釜石駅前〕

釜石駅周辺の事業者ら有志による釜石駅前夏祭りが初めて開催されました。ステージでは、雨雲を吹き飛ばすようにキッズダンスや、アコースティックライブなどたくさんの催しが行われました。周辺には出店やラグビーワールドカップPRブース、キッチンカーが並び、夕方からはビアガーデンも。訪れた人は食とさまざまな催しのコラボレーションを楽しみました。実行委員長の宮川徹さんは「この催しが釜石の未来につながれば」と釜石駅前から広がるまちの活性化を願いました。



「faire～楽～」の演奏をBGMに、エンパティテーブルに祈りもささげられました

リレー・フォー・ライフジャパン2018さんりく かまいし

7月28・29日〔釜石市民ホールTETTOなど〕

24時間がんと向き合っている、がん患者の思いを共有し支援するために、夜通し歩き続け語らうことで、生きる勇気と希望を生み出し、がんに負けない住みよい町をつくるチャリティーイベント。参加者は舞踏やフラダンスの披露、音楽の演奏なども楽しみながら、がん患者に思いを馳せ会場を歩きました。また、乳がんの闘病中で心理カウンセラーの浮世満理子さんを講師に、セルフケアに関する医療講演も開催されました。

※エンパティテーブルは、リレー・フォー・ライフのシンボルの1つで、座る人のいない椅子と、白い布をかけた机のこと。闘病中や亡くなった方々を偲ぶ場所です



石灰岩や黄銅鉱、柘榴石、鉄鉱石など、鉱山ならではの岩石を見つけました

夏休み特別企画 鉱山の宝探し

7月30日〔旧釜石鉱山事務所〕

釜石鉱山（株）社長の山澤茂行さんから釜石鉱山の概要と歴史について説明を聞き、展示室を見学した後、岩石を探しに屋外へ。参加した25人は、気になる石を見つけては山澤さんの元に集まります。後半は、採取した石を手にいよいよ標本作りに挑戦。大槌町から参加した澤山陽菜さん（小学4年）は「5種類くらい見つけた。キラキラした石もあった。自由研究にしようと思う」と笑顔をのぞかせました。

「ぼんやきゅう」著者お話し会&絵本原画展

7月8日〔図書館〕

震災で中断していた、鶴住居町の伝統行事・お盆野球大会が昨年復活。この話を、復興支援を続ける絵本作家の指田和さん（埼玉県鴻巣市在住。親戚が釜石在住）が絵本にしました。盆野球は、太平洋戦争後、若者のエネルギーを発散させようと地元の医師・水野勇さんが始めたもの。震災前は、地区の集落ごとの8チームが参加していました。絵本の絵は、人気絵本作家の長谷川義史さんが担当。帯には、「一緒に野球をした人のことは、絶対に忘れない。野球は地域や人をつなぐ力がある…（略）」と盛岡市出身で埼玉西武ライオンズの菊池雄星選手がつづっています。

※指田さんは他にも『はしれ、上へ! つなみてんでんこ』『あしたがすき〜釜石「こすもす公園」きぼうの壁画ものがたり』の釜石を舞台とした作品があります



タックルの実演をする特設ラグビー部の部員

釜石中学校海外派遣報告会、ラグビールール講習会

7月11日〔釜石中学校〕

釜石中学校は、海外派遣報告会とラグビールール講習会を開きました。報告会では、今年3月ニュージーランドとオーストラリアへの派遣事業に参加した5人が現地での体験や学んだことを紹介。また、講習会では、同校特設ラグビー部の片山寛太さん（3年）が、ルールやノーサイドの精神について解説しました。釜石シーウェイブスRFCの応援歌も練習し、8月19日に開催されるリポビタンD釜石鶴住居復興スタジアムオープニングDAYのメモリアルマッチで選手たちを勇気づけるために声を張り上げました。

“わ”で奏でる東日本応援コンサート2018 in 釜石

7月15日〔釜石市民ホールTETTO〕

セイコーホールディングス（株）の特別協賛で、2011年から被災地や東京など各地を回り、TETTOの完成でようやく釜石公演が実現しました。ジャズピアニストの前田憲男さんや歌手の渡辺真知子さんらが、釜石のドラマー・木下義則さんとベーシスト・菊池敬一さん、ブラック★かまリンズやガバチョ・プロジェクト フルーツアンサンブルと共演し、観客約600人がパワフルな音楽を楽しみました。

※“わ”には、支援活動の輪、被災者と支援者で手を取り合う輪、将来への希望や思いをつなぐ輪、一丸となって復興に取り組む調和の和、元気な日本の和の意味が込められています



「かもめが翔んだ日」など、圧倒的な声量で歌い上げ、観客を魅了した渡辺さん

「SL銀河」機関車一般公開in釜石

7月15日〔JR釜石駅〕

親子連れや鉄道ファンなど約450人が集まった蒸気機関車「SL銀河」の一般公開。来場者は写真撮影やクイズ大会などでSLの魅力に触れ、線路の点検などに使われる車両「レールスター」の乗車体験では作業員の気分を味わいました。JR東日本盛岡支社の中原俊直販売促進課長は「今後も沿岸までSLに乗って来てもらえるような魅力づくりに取り組み、それが沿岸の復興につながれば」と話しました。



機関車をバックに記念撮影!!

邦楽の調べ「みちのく紀行」

7月20日〔釜石市民ホールTETTO〕

箏、三味線、尺八、囃子や唄の名手たちによる美しい日本の伝統音楽の調べが披露されました。縁起物の一番太鼓に続き、釜石出身の瓦田松周さんが箏組曲「初音曲」で演奏と唄声を響かせました。開演前のお出迎え演奏には、市内の長唄三味線こども教室が出演。オープニングの釜石小唄を1人で歌い上げた、長谷川芽咲さん（小佐野小1年）は「大きいところで緊張したけど、歌っていたらだんだん楽しくなってきた」と満足げに語りました。



東日本大震災の被災者との連帯を強めるため、新日鉄住金文化財団が企画した作品「みちのく紀行」を総勢24人で演奏